

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4774800033		
法人名	有限会社美ら心		
事業所名	グループホーム あさぎりの里		
所在地	沖縄県宮古島市下地洲鎌518-1		
自己評価作成日	平成26年10月16日	評価結果市町村受理日	平成27年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんがこれまで長年行っていた集会(教会)への継続や信者同士の食事に参加している。宮古学園から入所の方は、入所時に話し合いを持ち学園の友達や先生方との関係が継続できるように週2日は作業に参加し、1年に1回は那覇へスポーツ大会に参加し那覇在住の家族にも面会している。学園での夏祭りや運動会には利用者さんと見学に行き応援し、これまでの馴染みの人や場所が途切れないように支援している。地域的美容室を利用し馴染みの場所づくりに努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JiyosyoCd=4774800033-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205
訪問調査日	平成26年11月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、医師が24時間対応する医療連携体制が確立しており、利用者や家族、職員の安心感に繋がっている。職員は、理念に沿った支援の実践に努めている。また、24時間2週間分の利用者の「笑顔」と「怒りや不穏」の様子が一目でわかるウイークリーシートを活用して利用者の状態把握に努め、写真付きの利用者の近況報告を年2回家族に送付している。共用空間は、飾り付けも含めて全体的に落ち着いた雰囲気である。訪問調査の日、玄関前で日向ぼっこをしたり、中庭にテーブルを出して昼食を摂っている時の利用者の表情が明るかった。介護計画は、介護支援専門員が作成したモニタリング総括表を基に作成し、毎月のミーティングで利用者全員のケア会議を実施して、個別計画の見直しも行なっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日：平成27年2月6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は、グループホームの意義を理解しており職員が仕事上でつまづいたり、迷ったりすると看護師としての経験を生かし理念に基づき話し合いをしている。	「その人らしく、自立の可能性を引き出す」を理念に掲げている。食卓拭きやモップがけなど、利用者ができることを支援し、食事を小鉢に盛り付けたら自分で食べるようになった利用者がある。胃瘻の利用者も医師の指示で昼食は経口摂取するなど、理念に沿って実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベント(敬老会・夏祭り)等に出かけたり美容院を利用している。又小学校の「町たんけん」を機会に子供たちが遊びに来てくれるようになった。	小学生が「町探検」で来所して利用者と交流し、事業所は運動会に飲み物を差し入れている。地域の敬老会に利用者が参加し、地域住民からは差し入れもある。利用者が無断で民家に入ったことがあり、公民館で職員が認知症について話をし、地域の協力を依頼した経緯がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所希望や見学時に、認知症についてのアドバイスをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には家族代表、区長、民生委員が参加し地域交流や日々の活動、医療、研修等について写真を添付して報告している。駐在所からの参加で地域の安全について助言してもらっている。	運営推進会議は利用者も同席し、行政職員は毎回参加、区長や駐在員も参加して年6回開催している。外部評価や事故等も報告し、運営の透明性が確認できる。区長からの地域情報の提供や意見交換があり、「地域交流をして欲しい」等の委員の提案を運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターと連絡を取り合い他の施設からの移動など連携している。	市担当者とは運営推進会議で情報を共有し、空床状況については毎月FAXで連絡し合っている。介護支援専門員や職員が、事故報告で担当窓口に出向くこともある。地域包括支援センターとは困難事例の相談等で連携している。行政からは研修の情報提供等がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠や拘束は行っていません。玄関や裏口にはブザーや鈴を取り付け、ホーム内外は安心して歩行できるように環境整備に努めている。徘徊のある利用者さんは一緒に散歩したりドライブで気分転換を図っている	玄関は施錠せず、センサーで対応している。身体拘束に関する資料を職員に配布し、ミーティング時に話し合っている。管理者は、利用者の行動を抑制する職員の言葉遣い等をその都度注意し、厳しく指導している。転倒予防のためセンサーを設置している居室がある。	

沖縄県（グループホームあさぎりの里）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については年1回プリントして配布している。入所者の状態観察を少しでも異変があれば職員間で話し合いを持ち往診時に主治医に相談している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関してはプリントにまとめ、職員に配布して読んでもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所希望時に説明し、解約時にも時間をかけてご家族と相談し対応方針も含めて納得が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来所時にはコミュニケーションを率先してとるよう職員全員が心がけている。入所者の希望、家族への電話や外出時は迅速に職員が対応している。	利用者の意見は食事や散歩時、在室時に聞いている。困難な場合は、相性の良い職員がスキップをしながら確認している。家族からは面会時や介護計画作成時に聞いている。怒りっぽい利用者の対応で、家族から情報を得て知人に面会に来てもらい、落ち着いた事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを月1回開催して意見、希望を聞いている、ミーティングで勤務体制の見直しや介護方針を意見交換している。勉強会では入所者一人ひとりの対応について話し合っている。	職員の意見は毎月のミーティングで聞いている。利用者と職員の馴染みの関係に配慮して居室担当を決め、職員の要望で吸引器やカラー印刷機を購入している。職員の資格取得を推奨し、取得後は給与に反映させ、研修の旅費や参加費も支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境、自由に意見が言いやすい雰囲気作りを心がけている。資格や研修等はできるだけ行けるように条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本島での認知症研修会や地域・他の施設で行われる研修、勉強会には職員同士で話し合い参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設との職員間の交流を積極的に行っている、他施設の職員と協力して敬老会の余興に参加している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段より本人の意見には耳を傾け、不安や困った事がある場合はミーティングを開いたり、家族に相談し本人に合った対応ができるように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所希望時、申し込み時には面談をし入所後も御家族の話に耳を傾けながら、どのようなケアがいいのか話し合いながら行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望時、申し込み時、本人、御家族の実情や希望にできるだけ対応しその都度、御家族と連絡・相談しサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事をしたり、利用者の表情によっては、居室で話を聞いたり散歩等で話やすい環境作りを心がけている。職員の個人的な話を聞いてもらうこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会される御家族が多く、入所者の現状を伝えながら今後の要望を話し合っている。ご家族が遠方でこれない方には電話や手紙で報告し本人からも電話をかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで自宅や本人の住み慣れた地域に行ったりしている。信仰を持っている方は集会に参加したり、食事会に出かけ馴染みの人との関係が途切れないようにしている。	地域の美容室への送迎、利用者の誕生日の親族参加の歓迎をはじめ、店員と馴染みの関係になった近所のスーパーへの外出の支援もしている。他施設から移ってきた利用者には元の施設と協力して園芸活動等の支援もしている。地域社会での関係性は家族から聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症のレベルに差がありますが、職員が中に入り一緒に作業をしたりレクをしたりしている。散歩時は元気な入所者には車椅子を押ししてもらったり、手を引いてもらったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移動後も訪問したり情報交換をしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見を聞きながら生活しやすい環境づくりに努めている。帰宅願望の強い入所者には散歩やドライブで気分転換を図ったり家族に連絡し電話や面会を増やすようお願いしている。	「天気が良いからドライブに連れて行って」等の利用者の声に応じている。事業所でとっている新聞を読む利用者もいる。把握が困難な場合は利用者と相性の良い職員がスキンシップしながら確認したり、ウイークリーシート(青は笑顔、赤は怒り・不穏)を活用して把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活を尊重して御家族から情報を聞きながらその人に合った環境づくりをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事時間、入浴等各々のライフスタイルに合わせた時間に対応して、できることは自分でやってもらいその人の時間を大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、御家族の意見を聞き、主治医の日常生活の留意点を活用しながら職員全員でモニタリングを行い入所者主体の暮らしに反映したもののできる限り近づけた計画を作成している。	モニタリング総括表を基に、毎月全職員で利用者のケア目標を検討している。計画の定期見直しは更新時で、随時の見直しもしている。担当者会議には利用者も参加し、担当職員の意見も反映させ、島外の家族には面会時に確認している。訪問診療計画書が介護計画と一緒に綴られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個別記録をし居室担当を決め職員間で情報を提供しながら本人にとって満足できるケアができるように検討し、計画を立てている。申し送り帳に主治医からの介護日常生活の留意点を記入し職員に知らせている。		

沖縄県（グループホームあさぎりの里）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じて御家族に電話、面会を増やしてもらったり、車椅子の方の外出は職員が同行したり、外泊も積極的にしてもらうように対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーや美容院を利用し馴染みの関係づくりを支援している。施設前を通る地域の方と会話をし時には来てもらう事もある。地域の敬老会に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に主治医との関係を大切にしながら、定期的に往診(24時間)を受けている、主治医から毎月「訪問診療情報」が配布され介護について留意点が記載されケアにつなげてる。	受診は本人等が選んだかかりつけ医で、全員訪問診療を受けている。職員は、病状の経過や日常生活上の留意事項を記したかかりつけ医の「訪問診療情報」を回覧して共有し、介護計画に反映させている。他科受診は、家族が対応できない場合職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各々の体調や些細な変化を見逃さないように、気づいたことがあれば管理者(看護師)に報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はたびたび病状確認にお見舞いし家族、主治医と相談しながらできるだけ早く退院できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り希望の御家族には主治医を交え説明をしてもらっている。施設は御家族の意向があれば看取りを行っていく方針である。	看取りの方針と手順書を作成し、ミーティングで管理者が職員に説明している。看取りの事例はないが、職員で話し合いを持ち、外部研修に職員を派遣するなどして取り組んでいる。緊急時や夜間、休日も医師の24時間対応体制が確保されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急、緊急時に対応マニュアルを作成し勉強会や話し合いを行い対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期の避難訓練を行い、台風時には早めの対応を行い安全を図っている。緊急装置は設置済み。当施設は地域のひとり暮らしの緊急時避難施設になっている。	訓練は、屋間の火災を想定した自主避難訓練と県主催の防災訓練に参加している。消火器の使い方や警報通報ボタンの押し方などは過去に消防職員の指導を受けている。今回、夜間を想定した訓練の実施はなく、地域との協力体制が築かれていない。	消防の協力のもとに昼夜を想定した年2回以上の防災訓練の実施、及び地域との協力体制づくりの取り組みが求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけには名前で呼びかけ、内容・語調には十分注意し入所者の誇りを傷つけないよう取り組んでいる。排泄時はカーテンを閉め介助することを徹底している。	職員は丁寧な言葉遣いを心がけ、語調にも注意し、利用者の誇りや尊厳を損ねることのないよう対応をしている。排泄や入浴時はカーテンを引き、羞恥心に配慮しながら支援している。個人情報保護法の遵守と管理の徹底に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの生活パターンを把握して本人が自分の希望を訴え決定できるように環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の仕事の流れはあるが職員の仕事を優先するのではなく、入所者の体調や気分には配慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ本人に好きな衣類を選んでもらうようにして、その人らしさを出すようにしている。好きなマニキュアの色を選んでもらい塗ったり、外出時はお化粧できるように化粧品を準備してある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食材の買い物や料理の下ごしらえ、配膳・下膳を行っている。その日の体調によりミキサー食に変更したり食べやすい形態にして職員と一緒に会話しながら食べている。	食事は事業所で職員が調理し、利用者と職員は一緒に食卓を囲んで同じものを食べている。利用者は調理の下ごしらえや配膳、下膳などに参加している。天気の良い日は中庭にテーブルを出して、俄か食堂で食事を楽しく食べる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々の好みや状態によりキザミ食、ミキサー食にしている。食事量や水分量は毎食チェックし、主治医と相談しながら栄養補助食品を使用している。		

沖縄県（グループホームあさぎりの里）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、うがい薬、口腔ケアティッシュでケアしている、週1回はポリドントを使用し歯茎の状態によっては歯科に受診行ったり往診に来てもらう事もある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿、排便表をチェック表を活用しながらひとり一人のパターンを把握し誘導をしている。現在4名の利用者さんが紙パンツから布パン+パットを利用し自力で上げ下げできるように支援している。	排泄チェック表の活用と併せて利用者の表情や行動にも注意し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレ誘導の支援をしている。蒸れによる皮膚疾患が起きないように、紙パンツから布パンツに変更することで、パンツを自分で上げることができるようになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で確認し、おやつ時に乳製品や寒天、アロエを飲食してもらいながら緩下剤等を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、各自の体調を考慮し本人に聞きながら入浴している、拒否のある利用者さんには無理強いせず時間を置いて声かけし本人が納得してから入浴している。	週2回、午前の入浴が基本で、入浴しない日は陰部洗浄や清拭、足浴で支援している。入浴は同性介助とし、脱衣所はカーテンを引いて羞恥心に配慮している。利用者の好みに合わせて浴槽浴かシャワー浴を実施している。冬場は湯冷めしないよう脱衣所をヒーターで暖めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理に消灯せずに本人の様子を見ながら誘導するようにしている。不穏時にはリビングで職員の側で休んでもらったり、冬場は足浴・マッサージを行い、リラックスした時間を持つようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々の薬剤情報は職員の見えるところに保管してある。ひとり一人専用カップに準備し食事と一緒に出して飲み忘れがないようにし状態の変化が見られたら迅速に管理者、主治医に連絡するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の好みが違うがドライブ・レクレーションで多くの入所者が参加できることを見つけて楽しめるようにしている。中庭でおやつ・食事をしたり、元気な利用者さんが食事介助や車いすを押して散歩したり役割が持てるように支援している。		

沖縄県 (グループホームあさぎりの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各自の体調や希望に沿って、無理のないよう外出の支援をしている。午前中はできるかぎり戸外へ散歩に出かけたり。教会の集会、美容室の利用、自宅への外出支援を行っている。年1回は那覇へスポーツ大会に参加している。	利用者は、天気の良い日は午前中に車椅子の利用者も一緒に敷地内を散歩したり、玄関先や中庭で日向ぼっこをしている。また、月に1度は職員と一緒に衣類などの買い物や美容室に出かけたりしている。教会に出かける利用者もあり、個別の外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持してる方は1名です、衣類や生活必需品は本人に選んでもらい購入している。頼まれた商品やおやつ時に食べたい物は一緒に買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望や帰宅願望がある時は家族に電話している。荷物が届いたときは本人から電話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ひとり一人が安全、安心して暮らせるように居心地の良い空間作りを工夫している。施設の設計段階から関わり採光、通気を配慮し、廊下スペースにはゆったりとくつろげるようにしている。	居間に椅子やソファを設置し、懐かしい学校唱歌などを流して寛げる雰囲気づくりをしている。壁に行事の写真を掲示し、季節毎に飾り付けを替えている。安全に配慮したフロアで歩行訓練も行われ、玄関には利用者が座って履き物の着脱ができるように長いすを置いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ等は自然と座る場所が決まっていたり、食卓でも気のあった人が会話を楽しめるようにしている。玄関外にベンチを置き好きなきときに出て過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた寝具を持ってきたり、壁には家族の写真を飾り見ってもらうようにしている。施設ではベット、畳を準備し本人の好みの寝具で休んでもらうようにし、自宅で慣れ親しんだ物を持参してもらうように働きかけている	居室には整理ダンスやベッド、洗面台が設置され、高齢者に馴染みのある日めくりカレンダーも事業所が配慮して備えている。利用者は寝具や衣類、時計などを持ち込んでいる。利用者の希望や状態に合わせて畳の部屋も準備し、利用されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々の部屋に表札をつけたり、入り口に花を飾り自分の部屋と分かるようにしている。建物内部・部屋の中は危険な物を置かないようにし環境整備に努めている。		